

郎世寧全集

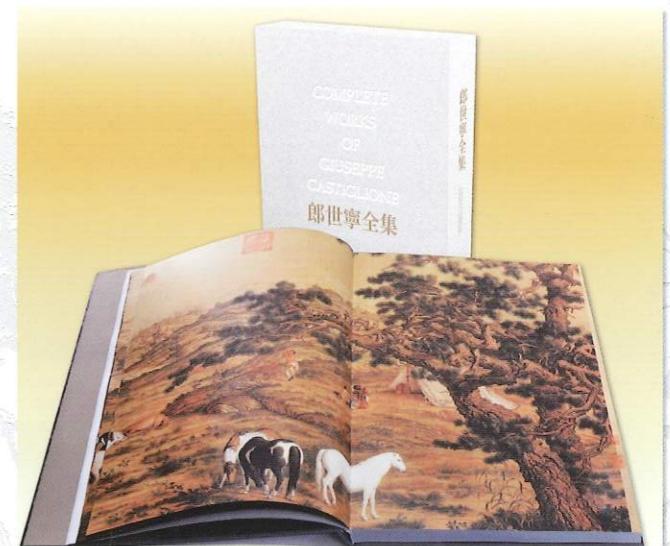
1688 – 1766 -

COMPLETE WORKS OF GIUSEPPE CASTIGLIONE



本書の特徴

- ◆北京故宮博物院、台北故宮博物院に収蔵される代表作はもちろん、クリーブランド美術館やメトロポリタン美術館など、欧米に現存する作品についても広く収録。東西絵画の融合を体現したその特異な画業をあますところなく紹介した初めての全集。
 - ◆各作品は全体図に加え、ハイライト箇所を拡大した部分図も併せて掲載。絹本の絹目や筆使いまで感じられるような迫力ある画面を、大判の図版で楽しむことができる。
 - ◆カステイリオーネの魅力を存分に示す早期の傑作「百駿図」をはじめ、馬、鳥、花、魚、猿、犬などの多彩な動植物画を、一種の博物図譜として楽しむことも可能である。
 - ◆康熙・雍正・乾隆の三帝につかえ、彼らの政治的戦略とも連動しながら描かれた皇帝・皇妃の肖像や、「乾隆平定西域戦図」などの戦図は、清朝史の側面からも興味深い図像資料となる。
 - ◆郎世寧研究の第一人者である聶崇正氏による論稿を八篇掲載。郎世寧を様々な側面から論じ、清朝宮廷絵画史研究の現到達点を提示する。
 - ◆清朝宮廷に仕えた郎世寧以外の西洋人宣教師画家の作品も一部掲載。
 - ◆巻末には「清朝宮廷画家郎世寧の年譜——ならびに在華イエズス会士の活動史」および「郎世寧伝世作品目録」を収録。



上卷

下卷

- 全2巻・美麗函入・分売不可・オールカラー
- B4変型判・上製 上巻=264頁・下巻=208頁
- 定価：本体 58,000円+税
- 2015年6月発売 ISBN：978-4-336-05903-1
- 発行：科学出版社東京 発売：国書刊行会

國書刊行會

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp> e-mail:sales@kokusho.co.jp

极店

申込書

郎世寧全集 全2卷
COMPLETE WORKS OF GIUSEPPE CASTIGLIONE

定価：本体 58,000 円+税

お名前

ア住所

お電話

東西美術の交流と展開を示す宣教師の画業

王凱（中国杭州師範大学教授・NPO法人日本國際藝術研究院院長）

この度、中国の天津人民美術出版社から中国語版『郎世寧全集』（上巻・下巻）が出版されるのに合わせて、科学出版社東京（発行）・国書刊行会（発売）より日本語

版『郎世寧全集』（上巻・下巻）も同時出版されることには、極めて深い意義がある。

本書には大量の写真図版及び多数の論文、詳細な年譜がまとめて仕上げられており、清朝宮廷画家郎世寧の生涯と当時の清朝宮廷の様子を我々に鮮やかに提示してくれている。

郎世寧（本名・ジュゼッペ・カステイリオーネ）は一六八八年七月一九日イタリアのミラノに生まれる。一七一四年、ヨーロッパの絵画技術を身に付けた彼は、イエズス会の宣教師として中国に派遣され、五一年の長きにわたって清朝三代の皇帝、康熙帝、雍正帝、乾隆帝に仕えた。彼は西洋人であり、その自身のアイデンティーをもつて、中国の文化、宮廷の習俗などを学び、その結果、中国人画家とは異なる表現が生まれた。郎世寧は、毛筆、絹、墨、顔料などの中国絵画の材料を駆使して、東西融合の絵画作品を制作し、西洋風の中国絵画作品を描き出した。その一生で創りだした作品には、彼が得た知識、優れた才能、及びその人生の全てが表出されている。

本書に収録されている百点余りの作品を鑑賞してみると、時代を代表する画家郎世寧が描いた「中西合璧」の絵画の真髄が感じられる。郎世寧の作品には、東西美術の交流と展開において非常に重要な価値があり、今後、清朝宮廷美術研究の不可欠な基礎的文献となる内容をもつことと思う。

推薦のことば

とうとう日本でお披露目、カステイリオーネ

中野美代子（北海道大学名誉教授・中国文学者）

『郎世寧全集』といつても、郎世寧？ そんな画家が中国にいたかな？ と訝る日本人が大半だろう。なるほど、一七一五年、二十七歳で中国に來り、清朝の宮廷画家として康熙・雍正・乾隆の三帝につかえ、一七六六年に北京にて瞑目するまで、一度も故国にかえることのなかつたカステイリオーネの生涯は、その中国名たる郎世寧のほうが、ふさわしいかも知れない。しかし、日本ではカステイリオーネのほうが知られているし、イタリア人イエズス会士としてのアイデンティティを明示するためにも、彼をカステイリオーネと呼んでおこう。

それはさて措き、カステイリオーネ研究の第一者である聶崇正氏の綿密な解説を付してここに登場した本集が、中国美術史ではもとより、西洋美術史においても特異な位置を占めるカステイリオーネの全貌を知るのに、今日のぞみうる最上の画集であること、いうを俟たない。

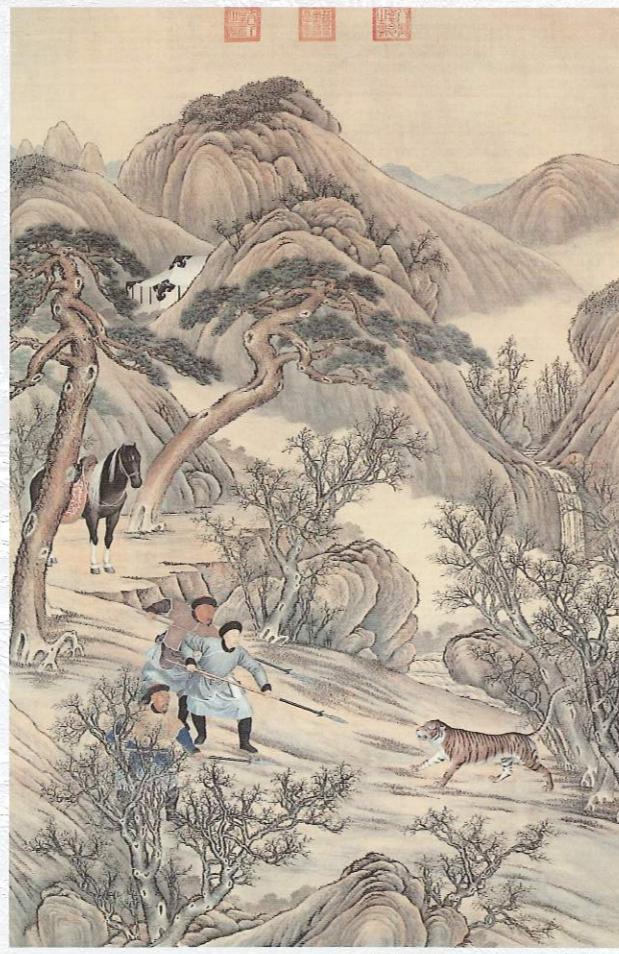
清朝宮廷におけるかれの画業は、乾隆帝が四方八方に張りめぐらせた政治の「図像学」的戦略と無縁ではありえなかつた。そのことは、絵画だけではなく、カステイリオーネを羅列されて人宫廷画師たちが乾隆帝の命令によつて設計・施工した、円明園の西洋庭園・西洋樓に顯著にあらわれている。本書にも「歐風東漸」と清代の宮廷銅版画の章に西洋樓図の一部が羅列されているが、このあたりのこと、拙著『乾隆帝—その政治の図像学』（文春新書）および拙作小説『カステイリオーネの庭』（講談社文庫）を併せお読みいただけるなら、本集所収のカステイリオーネのおびただしい絵画も、よりいきいきとうござだしてくれるかも知れない。

カステイリオーネが描いたあまたの動物・植物の絵は、博物図鑑的な趣きもあり、その面からも注目される。わけても、「交趾果然図」（下図参照）は、マダガスカル島にのみ生息するワオキツネザルを描いたものであるが、このサルがいかなるいきさつで交趾（ベトナム）を経由して皇帝に献上されたのかは不明である。乾隆帝は、この珍獸に中国古代の珍獸名「果然」をあたえ、さらには、花が満開の桃の木に実が生つてゐるという、ありえない風景を描かせたのだつた。

ある。



「交趾果然図」（台北故宮博物院蔵）



「乾隆皇帝刺虎圖」（北京故宮博物院蔵）



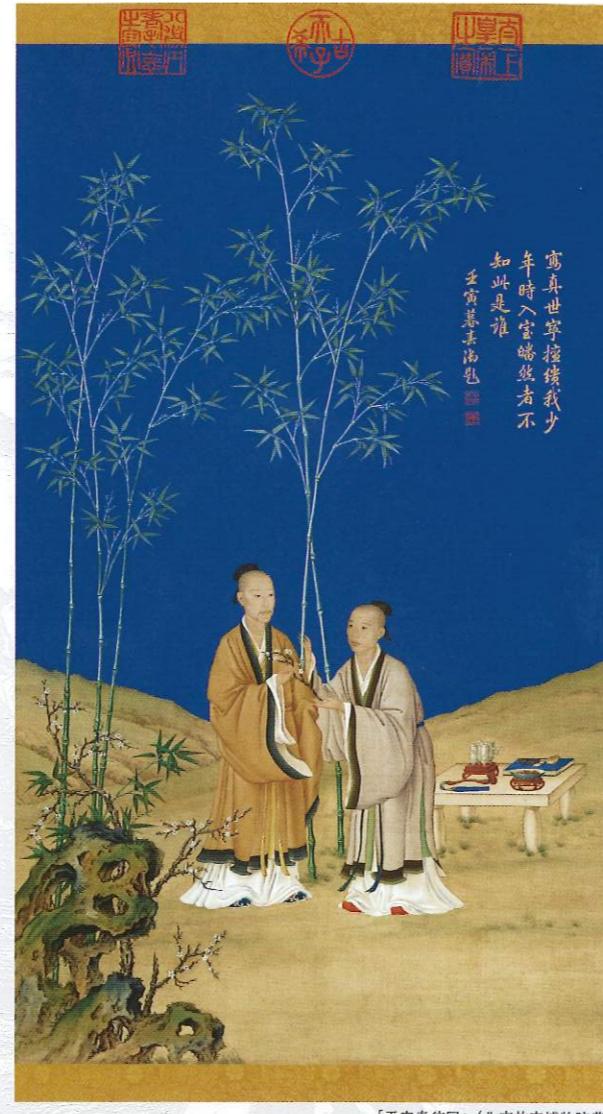
「魚藻図」（台北故宮博物院蔵）



「心写治平图」（クリーブランド美術館蔵）



「百駿圖」(台北故宮博物院蔵)



「平安春信図」(北京故宮博物院蔵)



「大閱図」(北京故宮博物院蔵)

主編 董 崇正 (じょう そうせい)

1938年上海生まれ。1965年に北京中央美術学院美術史学部を卒業し、北京故宮博物院に就職。中央美術学院、中国芸術研究院大学院、北京大学で教鞭をとるかたわら、長期にわたり中国古代絵画史の研究と展示に従事。とりわけ清代の宮廷絵画の研究に力を注いだ。『中国大百科全書』の「美術卷」「文物・博物館卷」を執筆。主な著作に『清代宮廷絵画』、『袁江与袁耀』、『郎世寧』、『曾鲸』、『宮廷藝術的光輝』などがある。

[科学出版社について]

中国科学技術の最高諮問機関である中国科学院（英文名：The Chinese Academy of Sciences）の管轄する科学技術系出版社。考古学、科学、技術、医学、教育関連の図書を中心に、毎年新刊書3000余点、定期刊行物200種を刊行する、中国を代表する学術出版社の一つである。

